



2023年1月

新春三味線

コンサート

恒例の『新春ミニコンサート』、三味線演奏と長唄はグループホームえんスタッフの林和秀さん。紋付き袴姿が決まっています。幕開けは「勸進帳」、えんのリビングルームが歌舞伎座に早変わりしました。えん終了後には、多機能ホームまどかに移動して演奏していただきました。急ごしらえの舞台はベッドの上に座布団二枚！！ 第8波の真っ最中のため、皆さんマスク姿なのが残念です。

今年こそカフェやコンサートを再開して、地域の皆さんとも一緒に楽しめる日がきますように。



～ 介護制度を守るために ～

2023年最初のえん通信です。ウクライナでの戦争が続き、物価は高騰し、新型コロナウイルス第8波は死者の数は過去最高、明るいニュースが少ない年明けです。今年こそコロナ禍が明け、戦争が終わり、ホッとできる日が来ることを願っています。

年が明けてしまいましたが、昨年7月、『あなたはどこで死にたいですか？～認知症でも自分らしく生きられる社会へ～』を出版しました。地味な内容にもかかわらず新聞の書評や新刊案内などで取り上げられるなど、たくさんの反響がありました。この本のベースはえんが集積した膨大な記録です。えんは「記録を残すこと」を大切に、年度ごとに法人全体と各事業の報告をまとめた総会資料は介護保険スタート前までさかのぼって集積されています。書くことが不得手な職員を叱咤激励して残した記録が、この本に活かされました。

書籍出版を決意させたのは、上野千鶴子さんの『在宅ひとり死のススメ』（文春新書）でした。介護保険のサービスが削減され、負担は増え、在宅にしろ施設にしろ望む支援を受けるのが困難になるばかりです。そんな中で「ひとり死、大丈夫!」と太鼓判を押されたのですが、昨今の介護保険やサービスの状況を見ると、とてもじゃないけど難しい。これは介護現場から現実を伝えなくてはならない、と思い立ったのです。

すると出版されて間もなく、上野千鶴子さんが「介護現場からの声を伝えるこんな本が欲しかった」とツイートされてビックリ。そこで対談をお願いし、「なかまある～在宅ひとり死は可能か～」（朝日新聞認知症WEBサイト、）に掲載されました。「在宅ひとり死」を主張するのは、ケアマネジャーや介護家族が施設入所をゴールにする傾向が強いことに対する反論とのこと。確かにその傾向はあり、在宅の可能性を探る努力は求められて当然です。「最期まで生き切ることができればいい。それを支えるのが制度です。その介護保険制度を守っていくために一緒に闘いましょう（上野）」と対談を締めくくりました。

書籍のあとがきに「スタッフの皆さん、これまでにえんのサービスを利用されたたくさんの方々、あなたがたのおかげでこの本が出来上がりました」と記しましたが、ここに支えてくださった「地域の皆さん」を加えます。心から御礼申し上げます。

代表理事 小島美里

看護小規模多機能施設あいが開設します

堀ノ内病院 堀越洋一

新座市では初の看護小規模多機能施設(略称:看多機)あいが5月に開設します。これはデイサービス・ショートステイ・訪問介護・訪問看護が一体化した複合型のサービスです。人生の最期まで可能な限り日常に近い時間を作り出すことこそ介護職の役割ととらえて、その豊富な経験を有するえんと堀ノ内病院が連携して新しい地域密着型のサービスを実現していきます。

気をつけて生活していても、肺炎や骨折等で突然に入院することが避けられない時もあります。そして数週間ベッド上で過ごしていたために、がくんと日常生活でできないことが増えてしまうことがあります。そうした場合、病院から自宅に退院しても、どんなふうに住生活できるのだろうか、それを支える介護ができるのだろうかという不安を本人やご家族が感じることは多々あります。看多機あいのスタッフは全力でそうしたご家庭を支えます。

人生の最期を住み慣れた自宅で過ごし全うしたいという望みを抱いている方は多くいらっしゃいます。人生の終末期にあっては、さまざまな苦痛の緩和がとても大切になってきます。患者が抱える全人的苦痛を軽減することができれば、本人だけでなく、ご家族の不安も少なくなり、最後まで家庭で過ごすことが実現しやすくなります。実は本人は自宅での最期を望んでいるにもかかわらず、入院しなければならない事情の多くは、介護する方の不安です。死にゆく人の傍に居続けるストレスや恐れは、分かち合ってくれる人がいることで軽減され乗り越えやすくなります。看多機あいはそうしたご希望に添えるように、心を尽くしてご家庭で過ごせる支援をします。

新座市南部の地域において、中核医療施設である堀ノ内病院と介護の包括的な事業所であるえんが連携することで地域住民のいっそうの安心をもたらすこと、それが今回の看護小規模多機能施設あいのめざすところでもあります。



イラスト／寺山寿子

～国会集会に参加して～

「シブシブついていった集会だったけれど…」

「国会集会に行かない？小島さんがお昼ごはんご馳走してくれるよ。なんでも食べていって！」とケアサポートえんの管理者に誘われ、つい「行く!!」と返事をしてしまった。

当日の行き先は国会議事堂ではなく(残念!)、衆議院第一議員会館というところだった。この日の私の役目は、玄関で集会参加者に入館証を配ること。建物は広く黒っぽいスーツの人が出入りし、社会科見学状態。

さて「史上最悪の介護保険改定を許さない!」集会。いろいろな立場の力強い発言が続く。国は家族介護に戻そうとしている。要介護1,2が介護保険サービスから外れて総合事業に移行したら、受ける事業所がなく在宅要介護者が放置されるのではないかなどなど。

特に衝撃的だったのは、車椅子利用者の会場からの発言だった。夫要介護5、妻要支援2、夫の訪問入浴で高温の湯船に入れられてしまい、ケアマネに伝えると、トラブルのあった利用者には来てもらえなくなるから何も言えない、と言われた。人手不足のため必要なケアに入れないと断られ、それなのに「自費サービスでいかがですか」とも。ふたりの介護費用でたくわえを使い果たし、生活保護を申請中という。このようなことが将来自分の身にも起きるかもしれないと思うととても不安になった。今の利用者さんのためにも、自分自身のためにももっともっと声を上げていかなければと思った。

シブシブついていった集会だったけれど、別世界を見られて、衝撃を受けて、たくさん学べた自分がいた。

(ケアサポートえん/清野信江)

「怒りは力だ!」

永田町の衆議院第一議員会館に行ってきました。国会議事堂もある永田町は私たち国民に身近であるはずなのに、何だか敷居が高い。このたびは議員会館で開催する「史上最悪の介護保険改悪を許さない!院内集会および記者会見」の会場受付というお役目を仰せつかったの探訪となりました。えんからは各事業所から総勢5名のスタッフが参加し、平生はゆっくり話せない職員同士、仕事場を離れ交流が持てたのは収穫でした。そして、何よりも、集会で介護業界の錚々たるメンバーの生の声を聞いたことは大切な経験となりました。

改悪反対のアクションは10月から11月にかけて4回の連続オンライン集会でご覧になった方もありますが(その影響で、SNS上で「#要介護1と2の保険外し」がすごい勢いでトレンド入りし、オンライン署名が急増したことも)、その締めくく

りがこの院内集会でした。当日の会場は議員会館で一番広い大会議室。続々と関係者が受付を終えて席に着きます。時間をやりくりしてやってきた議員さんたちも挨拶に立ちました。(立憲、共産、社民)。

登壇者の熱のこもった発言の数々はネット配信で見られますのでそちらに譲るとして、会の締めくくり樋口恵子氏の抗議声明の中で、「福祉用具の一部をレンタルから買い取り」の項目が「本日 11 月 18 日の審議会で見送りとなりました!」と朗報が発表され、拍手喝采。皆の怒りの声が政治を動かした瞬間でした。又、11 月 28 日には「ケアプラン作成有料化」も先送りする方向との報道がありました。しかし、介護費用の削減に国はあの手この手を使ってくるに違いありません。今後も介護関連の報道を注視していきたいと思います。

(デイホームえん／長谷川洋子)

認知症対応型通所介護

通って・泊まって
デイホームえん
(デイサービス)

101 歳おめでとうございます。

昨年 100 才の誕生日を祝った小幡さんは、週 2 回の利用を殆ど休まれることなく 1 月 20 日に 101 歳を迎え、101 歳を祝う会をしました。

当日は桃太郎のおじいさん、おばあさん役に扮したスタッフが川から流れてきた大きな桃を持ち帰り、桃の中から 101 歳の小幡さんが登場、皆さんで「101 才おめでとう!」と拍手と笑顔でお祝いしました。ご本人は何が起きたのかとビックリの表情でした。

利用時間中はベットで横になられることもなく、メガネ無しで俳句の本を読まれたり、庭で日向ぼっこしているネコを見つけると突然「ニャー!」と大きな声で呼ばれ、周りにいる人達を笑わせてくれます。大テーブルに小幡さんが座っているだけでデイホームの空気がなごみます。杖歩行の利用者さんが歩こうとすると優しく背中をさすり「頑張って」と笑顔で励まし、個別機能訓練を受け終わるとPTの先生の頭をなでなでしたり両手を合わせて感謝の意を伝えられています。介護タクシーの運転手さんを見て「先生が来た!」と言われるのでご家族の方に聞くと、昔の学校の先生に似ているとか。

ご家族は「母の望む在宅生活が続けられるように支えたい」と希望され、デイホームえんでも協力していきます。

目指せ、長寿番付日本一!!



(デイホームえん／谷口光枝)

最期まで自宅で過ごすことを決めた、Kさんのこと

この11月、長くかかわっていた利用者さん(88才)がご自宅で亡くなられた。5月に退院され、一人暮らしだが最期までご自宅で過ごされることを決め、この半年間ケアマネジャーを中心に訪問医療、訪問看護と連携し10名以上のヘルパーで支えてきた。

出会いは20年も前になる。緊張気味の新人ヘルパーを穏やかな笑顔で迎えてくださった。足浴や調理から始まった。台所にそろっている調理道具はプロ仕様、教会のバザーではパウンドケーキを焼いて好評だったそうだ。料理だけでなく、ご自身のコートから夏のスーツまで作り、和洋裁、手芸、手仕事万端極めていた。二階には編みかけのタティングレースが広がっていた。友人たちも、衣食に関するたくさんのごことを教わりに集まってきては、楽しい時間を過ごしていた。パソコンはレシピや写真、年賀状作りにも使っていた。デイサービスでは将棋に会い、本を買って学ぶ。新聞も毎日目を通し、「ね、これ読んだ?ひどいわね」と社会問題にも関心が高い方だった。制度改定の影響でご自分の介護度が下がった時には、国会集会で「進行する病気で悪くなっているのに、なぜ?」と国会議員の前で堂々と意見を述べられたそうだ。

ご自身は、若いころからリウマチを患って関節の痛みと戦っていた。すでに膝や股関節の手術もされていたがご本人は詳細は語らず、その時点で必要なケアは何か相談しながら提供し、生活を支えた。症状の進行に伴って、買い物、入浴介助と増え、ケアしながらおしゃべりする時間も増えた。

「何かに夢中になっていると痛みも忘れるの」。そこが原動力なのはつらいが、いつも笑顔で楽しんでおられたのも事実。ほんとうにたくさんのごことを教わった。衣・食・趣味・感性にも影響を受けた。ケアの知識と心構え、自立支援とは何か、も。

(ケアサポートえん/石井美佐子)



「伝えたい まどかのこと」 ～訪問サービス編～

Aさんと私のやりとり

(スタッフ/近藤理恵)

Aさんは中重度の認知症があります。ある朝の訪問。

「おはようございます。まどかです」と、声を掛けても返事はありません。

「誰か来た!寝ているとことに入ってきて何よ!頼んでないわよ!帰ってよ!」

布団を頭まですっぽりかぶり寝ている A さん。さあ…どうしよう…。様子を見ながら何度か声をかけてみるのですが、背中を向けさらに布団の中にもぐり込み、なかなか顔を見せてはくれません。Aさんは、甘い物や歌が大好きなのでコーヒー牛乳を用意して、声をかけながら痛いという足をさすってみたり、「可愛いベイビ～ハイ、ハイ、」と歌ってみたりしながら、布団から顔を出してくれるのを待ちます。

「もう、うるさいなー!何よこれ!誰が濡らしたのよ!私は知らないから!」

ビッシヨリ濡れたシーツを見てご立腹。「そうよね、冷たかったでしょう」と話をしながら、体を拭き、着替え、シーツ交換をします。

「何よそれ!そんなの知らない!」

朝のお薬は、息子さんの子供の頃の話をしながらか一口。歌をうたってまた一口と、なんとか飲んでいただきました。

「♪カラスの赤ちゃんなぜ泣くの～月」

まどかに向かう車の中では歌がでるほどにご機嫌の A さん。まどかに来てからも大好きな歌をうたっていました。

思い通りには…

(スタッフ/権田歩)

訪問サービスでも色々なエピソードがあります。

「待ってま～す」と電話があったのに着くと出てこないとか、なかなか起きられないとか、その利用者さんそれぞれのペースがあり、「今は着替える必要はないの」など、こちらの思っている通りにはまずいかない、と思っても良いかもしれません。

まどかに来所されている時とは違って、自宅はその方にとってのフィールドですから、その中に入っての“行い”はなかなか難しい事です。

でも、まどかでは見ることのできない“その人となり”にふれることができ、その方に合った対応を考えることが醍醐味、楽しさのひとつでもあります。

職員大募集！！

離職率が低いと評判の暮らしネット・えんで一緒に働いてみませんか？

今年 5 月、堀ノ内病院が看護小規模多機能型サービスあいを開設(P3参照)、えんは応援の職員を派遣します。このため各職種職員を大募集します。

資格取得のお手伝いもしますので、経験のない方もどうぞ。

介護保険事務担当者・送迎運転担当者も募集しております。

担当 小島・真中 (tel 048-480-4150)



イラスト/田島薫

◆ 認知症電話相談のお知らせ ◆

認知症に関する悩みごと、介護のコツや生活の工夫等々、お気軽にお電話ください。

TEL 048-480-4150

～今後の地域交流事業について～

認知症カフェは参加者を限定して開催します。(暮らしネット・えんまでお問い合わせください)

だれでも食堂にいざはお休みさせていただきます。

～新型コロナウイルス対策～

第8波は感染力が強いと聞きます。感染防止対策にとめてまいります。



地域で暮らし続けていくために 2022年度新規・継続会員募集中！

正会員：1000円 賛助会員：3000円

※入会を希望される方は、事務局までご連絡ください。

郵便振替(00180-5-314344)



■ 編集・発行 認定NPO法人暮らしネット・えん

〒352-0033 埼玉県新座市石神2-1-4

電話:048-480-4150 FAX:048-201-1311

Eメール:npoenn@jcom.home.ne.jp

ホームページ:https://npoenn.com/